

Institute for Psychological Research, Meiji Gakuin Univ.

2008年 12月

# 心理学部附属研究所 通信

## 第2号

明治学院大学

### 「心理学教育の新スタンダード」の構築へ向けて

心理学部附属研究所は、開設以来、「相談・研究部門」を中心とする相談活動と、「調査・研究部門」を中心とする調査活動、および所員によるプロジェクト研究の主に3つの活動を活発におこなってきました。それらの活動は、実践課題に創造的な貢献をする「構成的研究」と「実証的研究」の両者を大事にするもので、その根底には、「ここを探り、人を支える」という心理学部の教育理念があるといえます。この教育理念を具体的に学部カリキュラムに示す「心理支援論」の実践が、先般、平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」（文部科学省：教育GP）として採択されたことは、心理学部の教育・研究に携わる私たちにとって望外の喜びでした。

急速な変化をとげる現代社会にあって、自己の精神的健康を維持し、また周囲の人々を心理的に支援していく人間力ともいえる総合的な力をはぐくむ「心理支援論」は、今後の心理学教育の新スタンダードともなっていくと信じます。そしてそのスタンダードを構築していくためには、今後ますます地域に開かれた当研究所における研究・教育活動の実践が寄与していくものと考えられます。幸い、2009年4月より研究所の「相談・研究部門」（心理臨床センター）が高輪校地に移転し、新たな施設で大きく活動をスタートすることとなりました。そこでは、心理支援の心理学的基礎をもとに地域の資源を活用した実習や体験などがより充実していくと期待されます。加えて、卒業後教育研修や公開型のワークショップ・講演会の開催、そして今年設立された心理学部の同窓会組織である白金心理学会（「白金サイコロゼ」）の活動なども期待されます。その

ような活動拠点を擁する心理学部附属研究所の諸活動がひいては地域の心理支援システムの開発につながることを強く願うものです。

心理学部附属研究所所長  
井上 孝代



高輪校舎 完成予想図

### 研究所各部門から

#### ◎調査・研究部門より

調査・研究部門では、研究所員と学内外の研究者との共同研究であるプロジェクト研究への助成を行っております。

2008年度は、前年度からの継続研究4件に加えて、新規に8件の研究を採択いたしました。これらの研究は、幅広い領域にまたがり、いずれも現代的ニーズを取り上げた研究となっております。これらは本学心理学部教員の幅広い研究領域を反映し、また地域社会に大学研究を還元し、より積極的にコミュニティにおける大学の役割を具体化しようという当研究所の姿勢の表れといえましょう。調査・研究部門では、今後もこの姿勢を維持しつつ、さらに、基礎的実験的研究プロ

ジェクト助成の充実も図っていきたいと考えています。

また、今年度からはこれまでの研究所紀要から研究所年報を新たに発刊する運びとなりました。研究所年報では、研究論文や研究レポートの掲載とともに、研究所各部門の取り組みや公開セミナー等、研究所事業の報告をより充実させていきたいと考えております。

調査・研究部門主任  
清水 良三

### ◎相談・研究部門より

相談・研究部門（心理臨床センター）は、2009年4月、現センターから歩いて5、6分の高輪校地に転居することになりました。新しい建物には、心理臨床センターと法科大学院、院生室が入っていて、新センターは、1、4、5階を使用することになっています。現センターにはエレベーターはなく、カウンセリングルームやプレイルームも手狭でしたが、受付や個々の部屋を含めて、全体的にかなり広くなります。4階が主に発達障害児の支援、5階が主に一般的なカウンセリングのためのフロアで、1階が受付と待合室になっています。

センターのハード面は充実しますが、ソフト面をどうするかがこれからの課題です。クライアントが増えれば増えるほど、相談スタッフや大学院生を指導する教員が必要になります。精神科の医療機関は、カウンセリングをその専門機関に任せるというスタンスを取るようになってきています。また、医療現場同様、学校現場や職場でも、専門機関を求めています。犯罪、虐待、不登校、引きこもり等、今日の社会は心のケアの必要性に迫られています。そのような希望に応えるためにも、ソフト面の改善を行い、前進したいと思っています。

相談・研究部門主任  
阿部 裕

### 白金校舎11号館における心理臨床センター

高輪校舎における新しい心理臨床センターが、2009年4月の始動に向けて着々と準備が進められてきております。新センターでは、現在のセンターと比較して相談者の方の利便性に加え、様々な機能も充実させていく予定です。

2001年10月に開設した心理臨床センターは、白金校舎11号館と共に約7年間の道のりを歩んできました。部屋数やエレベーターなどの施設設備も充実しておらず、相談者の方に多くの負担をおかけし、またご理解をお願いしながら様々な活動を行ってきました。その一例としては、エレベーターがないために上の階に行くのがご負担な相談者の方には1階のプレイルームで面接を行わせていただいたり、かなりのご苦労ご負担をおかけして3階や4階での面接をお願いしたりすることもあります。また廊下も迷路のように細くなっているため、面接終了後受付に向かう方向に迷ってしまったりする方も少なからずいらっしゃいます。

一方11号館の利点としましては、国道1号線沿いにあるため、多くの方の目にとまりやすく、「道沿いの看板を読んで」相談申し込みをされてくる方も少なくありません。そして11号館の規模の小ささ・狭さが、逆にアットホームな雰囲気を醸し出すことになり、相談者の方が「ほっとできる」空間でもあったのではないかと考えております。いずれにしましても様々な面で相談者の方のご理解があったからこそ7年という期間、地域の相談機関として機能できてきたのだと思います。

新しいセンターでは、相談者の方に施設面でもソフト面でも出来るだけ利用しやすいセンターを作りたいと考えております。そのために可能な限り利用者の方々のご意見・ご要望を賜り、センターの運営に活かしていければと考えております。

心理学部附属研究所副手（専任カウンセラー）  
田所 撰寿

### ◎発達障害児者の支援者への支援

全国各地で発達障害者支援体制の整備が進められています。2004年に発達障害者支援法が成立し、発達障害者支援センターの設立やモデル事業の実施が始まりました。また、学校教育の中では、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への支援体制が構築され、2007年には全国の98.9%の小学校、93.4%の中学校で特別支援教育コーディネーターが指名され、支援のための校内委員会が設置されています。

このように支援体制の整備は進んできていますが、日々子どもたちと接している学級担任や保護者への支援は十分ではありません。子どものニーズや支援の方策を把握するためのアセスメント、個別の指導計画の作成、支援の実施、評価という「支援のサイクル」が開始されていないのです。その理由として、学級担任や特別支援教育支援員等直接子どもにかかわる支援者からは「個別の指導計画」の作成が難しいことが指摘されていました。そこで、「個別の指導計画」作成のどの部分に難しさがあるのかを明らかにするために、アンケートを実施しました。また、実際に個別の指導計画を作成する演習を通して、何が作成を困難にしているのかを考察しました。その結果、子どもの実態に基づく指導目標を具体的に設定することが難しいことが明らかになりました。支援の方法を考え、実際に支援を実施し、その成果を評価して次のステップに移ることができれば、支援者自身の意欲が高まっていくはずです。一方、抽象的な目標設定からは具体的な支援の方法も見出せないですし、評価もできないのです。

「具体的な目標の設定」ができるようになるには、練習が必要です。子どもたちが抱える困難さや支援の方法に関する研修は数多く行われていますが、このような「具体的な目標」を考えることができるようになるための研修も必要であることが明らかになったと考えています。

### ◎心理臨床における父親・夫

家族の中での父親や夫の果たすべき役割や現状については、さまざまな心理学的研究をはじめとしてマスメディアでも多く取り上げられてきました。子育てを母親に任せきりの父親、妻をサポートしない夫など、その多くが男性の「問題」として扱われてきました。しかし、夫婦療法や家族療法をやっていると、そうした「問題」にだけ焦点が当てられていると、効果的な援助には結びつかないということを痛感させられます。

これまでに、さまざまな心理療法理論やライフサイクル論が男性をモデルとしているということで批判されてきました。しかし、ことはそんなに単純ではないと思います。多くの心理療法では、クライアントの感情表出が重視されていますが、一般的に、男性は女性ほど自分自身の感情を表出しません。とりわけ、悲しみや寂しさといったいわゆる弱い感情はなかなか表現できません。さらに、うつ病と診断されているのは女性の方が多いものの、男性の自殺者数は女性の2倍以上です。このような傾向は、男性の言動が日常生活のさまざまな場面で誤解されることにつながり、男性自身のメンタルヘルスに影響を与えるのはもちろんのこと、夫婦関係や親子関係にもマイナスの影響を及ぼしている可能性があります。

夫婦や親子をめぐるさまざまな問題が急増していますが、男性が「問題」だからというのではなく、我々心理臨床の専門家も男性の心理については多くを知らないという現実を直視し、父親・夫を批判して変えようとするのではなく、よりよく理解して援助するという姿勢が必要になってきていると思います。それは、男性をサポートするだけでなく、妻や子どもを支えることにもつながるのではないのでしょうか。

### ◎第3回精神医学セミナーの報告

6月14日、28日に第3回精神医学セミナーを開催いたしました。「子どものこころの最新医療」をテーマに、2日間で4名の先生方に発達障害のケア、家族療法、子どものうつ、子どもの統合失調症についてそれぞれ講義をしていただきました。心理士、学生の方を中心に2日間合計で86名の方にご参加いただきました。セミナー終了後実施したアンケートでは、「子どもに焦点をあてたセミナーは珍しく、よい機会となった」、「今後に生かしていきたい」等好評をいただくことができました。

### ◎第7回カウンセリングセミナーの報告

8月6日～7日にかけて、第7回カウンセリングセミナーを開催いたしました。今回は「特別支援教育の時代に働くスクールカウンセラーの役割と専門性」をテーマといたしました。講師の先生方にはそれぞれの実践的な取り組みについてお話していただき、特別な教育的ニーズのある児童・生徒に対する支援が本格化する中、スクールカウンセラーのはたすべき役割と専門性についてあらためて考えていく機会となることができましたと思います。小中学校教員、スクールカウンセラーを中心に79名の方にご参加いただきました。

### ◎2008年度プロジェクト研究紹介

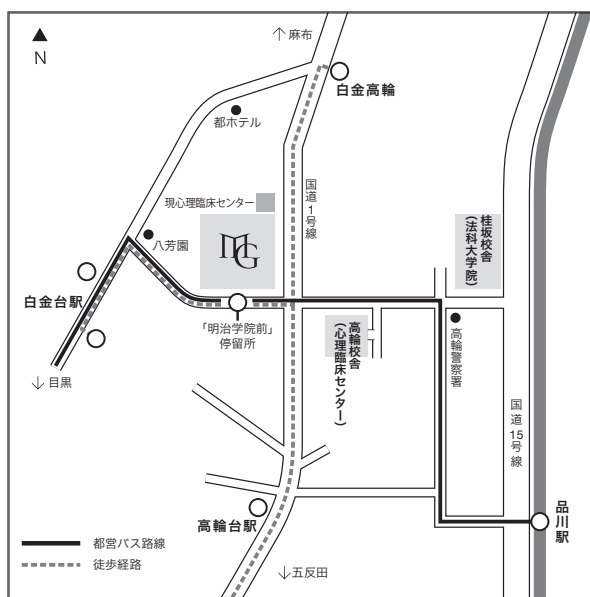
- 臨床実践におけるエンパワーメント評価のコミュニティ心理学的研究 (代表 井上孝代)
- 発達障害児・者への生涯にわたる地域支援システムの構築 (代表 緒方明子)
- 学齢期における環境移行への発達支援と教育支援 (代表 藤崎真知代)
- 生体肝移植後のドナーの心理的変化の推移について (代表 佐野直哉)
- 心理臨床家の成長と発達のプロセスに関する研究 (代表 金沢吉展)
- 教育臨床領域における心理職の役割および機能に関する研究 (代表 田所撰寿)
- 移住者の抱えるストレスの比較研究：日本とスペイン (代表 阿部裕)
- 心理臨床における父親・夫への効果的な援助に関する

る研究 (代表 野末武義)

- 精神障害者の地域生活における心理支援に関する研究 (代表 杉山恵理子)
- 高機能広汎性発達障害のコミュニティケア：  
小学高学年～中学生向けプログラムの開発 (代表 小林潤一郎)
- 食生活スタイルとQOL (代表 佐藤真一)
- 大学生のキャリア発達 (代表 小嶋明子)

### ◎心理臨床センター移転について

心理臨床センターは、2009年4月、高輪3丁目の新校舎（高輪校舎）へ移転することとなりました。移転に伴いまして、関係者の皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



### 心理学部附属研究所 通信 [2008年 12月 第2号]

編集・発行 明治学院大学心理学部附属研究所  
所長 井上孝代  
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37  
TEL : 03-5421-5445  
E-mail : cccsnr@psy.meijigakuin.ac.jp